



学校紹介 ～その55～

☞ 阪神丹有地区生活体験発表大会について

前回に引き続き、石川廉君の原稿を紹介します。



「今」

石川 廉



僕は、市高に入学して、今四年生になった。元々高校に行く気がなく、市高に行こうと思ったのもとても遅かった。ただ何となくという気持ちだった。市高を選んだのも、二年目から、学校が近くなるからだった。

こんな感じで、市高に入学したので、学校が続く気がしなかった。でも、いざ学校に行ってみると、これが思ったよりも面白い。毎日「だるい」、「しんどい」と思いながらも通い続けた学校。一日一日は長いけれども、もう四年生になっている。けれど、一年生のときのことも、二年生のときのことも、三年生のときのことも、昨日のこのように思い出せる。今思えば、毎日学校に来ることに意味があったのだと思う。

市高に入学してから、アルバイトを始めたことも僕にとっては大きいことだった。四年間で四つのアルバイトをした。今はラーメン屋で働いている。ここで、一番成長出来たと思う。いつまでも教えてもらえと思わず、自分で学ぶ努力をすること。体調管理は自分の責任であって、それで人に負担や迷惑をかけではいけないということ。数え切れないほどたくさんのお話を教わった。もちろん、凄く厳しかった。でも、ここで働いたことは僕の成長に大きく関わっていると思う。

高校では、いいことも悪いこともいっぱいあった。今はその全部を含めてがんばってよかったと素直に言える！

日常生活では笑顔が凄く増えた。笑顔が増えると、自分自身の心が広くなったように感じる。友達も増えて、毎日がより楽しくなる。学校だけでなく、家でも両親との会話が増え、家族が仲良くなった。一緒に食事に行くなど、楽しく過ごせる時間も増えてきた。

そして、なによりの変化は、自分が苦しむことで、人の痛みを知ったことだ。バカなことはやめようと、

本気で心から思えるようになった。他人の事を考えられるようになった。周りが見えるようになった。自分だけのやり方では、上手くはいかない。自分を曲げないことは大事だが、相手に合わせることも大事だと気づくことができた。人と話をするときも、相手の話をまず聞き、理解した上で自分の意見を話すことを身に付けた。その方が、話しやすくなるし、相手の気持ちも聞き出せる。その中で僕自身が学べることも少なくはない。

いよいよ進路を選択する時期となった。夏休みまで就職を希望していたが、本当にこれで良いのか、このまま就職して社会人になり、満足出来るのか、少しずつそういった気持ちが大きくなっていった。夏休みに入り、就職の準備が本格的に始まった。迷いはある。百パーセントのやる気は出ない。しかし、もうガキではない。自分のためにも精一杯頑張ろうと決めて、夏休みに入ってから、毎日学校に通い続けた。不思議と夏休みに登校するのが苦ではなかった。これまで、休みの日に学校に来るのは死ぬほど嫌だった自分がここまで変わるのかと少し驚いている。今までの僕ならこの変化も自分の成長だと考えていただろう。でも、今はそれだけではない。

僕には、去年三年制でこの市高を卒業し、今は専門学校に通っている友人がいる。この友人が去年の卒業式で答辞を読んだ。その中に、こんな言葉があった。「市高の先生は、どこの先生よりも親身に僕らに接してくれます」卒業式のときには、何となくしかその言葉の意味がわからなかった。今なら、わかる！先日、その友人と話していたとき、友人の通う専門学校の話になった。「最近、学校どうなん？」と僕が聞くと、「あかんわ、全然楽しくない。友達もなかなかできへんし」そして、友人は続けて「市高はホンマよかったで！市高の先生はみんなめっちゃいい先生やった！廉もよう話しときや！今の学校の先生なんか全く赤の他人やで」と笑って言った。ふざけ合って話した中で、僕は少し真剣に受け止めていた。

そしてついに、僕にも市高のよさがわかる時が来た。それは、就職面接の練習の日だった。やはり、百パーセントのやる気は出ていない。でも、真剣に一生懸命に取り組んだ。そして、練習終了後、担任を含む三人の先生と話をした。このまま就職するこ

とに少し不安があり、進学も考えていることを話した。僕は進学は無理とか、就職を頑張った方がいいと言われると思っていた。しかし、その予想は見事に外れた。三人とも真剣に僕の話に耳を傾けてくれた。それぞれの先生が本気で考えて、本気で僕に話してくれたので、僕も素直に思っていることが話せた。この日、全ての答えが出たのだ。

僕は、今思うことがある。それは人生は予想外の連続だということだ。中学生の頃は、高校に行く気がなかったが、高校生になった。高校入学当時は卒業なんて無理だ！と思っていたのに、もうすぐ卒業することになる。そして、就職するとほぼ決めていた僕が、今は進学を真剣に考えている。もっといろいろなことを知りたい、もっといろいろな人に出会い、もっと自分の視野を広げたい。進学することは、かなりしんどいと思うし、辞めたくなることもあるかもしれないが、このチャンスを最大に生かして、大きな夢をつかみ取りたい。僕は、市高の先生達に出会わなければ、このように考えることはなかったと思う。四年間積み上げてきた信頼関係が進学という選択肢を導き出したと思う。本気で学校に通ってきてよかった。

来年は二〇歳、これで本当の大人の仲間入り。市高で学んだ色々なこと、アルバイトや友人とのやりとりで学んだこと、この学んだことを生かして、ひとり立ちしたい。しっかりとした大人になれるように、残りの高校生活を悔いのないように過ごそうと思う。一日も休むことなく、しっかりと高校生をやり抜く。それが「今」の決意だ。



石川君は10月12日(日)に行われる、「兵庫県高等学校定時制通信制生徒生活体験発表」(県大会)に出場します。

🏆体育行事(フィールドアスレチック)について

10月3日(金)、フィールドアスレチックに行ってきました。「神戸スカイアドベンチャーすずらん」(神戸市北区)の売りは、地上約7メートルの高さに張り巡らされた遊具。あまりの怖さに途中棄権する生徒もありましたが、ほとんどの生徒が渡りきりました。



生徒たちはお互い励まし合ったり、アドバイスし合ったりと(中にはわざと揺らすいらずら者もいましたが)、この行事の目的でもある「協力体制の築き方」や「社会性の向上」を学んでくれたようです。



10月の行事予定



- 10月12日(日)……県生活体験発表大会
- 16日(木)
- ～22日(水)……中間考査
- 20日(月)……カウンセリング
- 27日(月)……カウンセリング
- 30日(木)……アートセラピー
- 31日(金)……人権研修会



11月の行事予定



- 11月 5日(水)……人権教育行事
- 10日(月)……カウンセリング
- 17日(月)……カウンセリング
- 22日(土)……文化鑑賞会(繁昌亭)
- 25日(火)……代休



編集後記

今夜(10月8日)は3年ぶりの皆既月食です。子どもの頃「カイキゲツシヨク」という言葉に薄気味悪いイメージを抱いていたのですが、それはどうやら夢中になっていたある特撮ドラマが原因のよう。「皆既」が「怪奇」でないことがわかったのは、そのメカニズムを教わったときでした。

月食がなぜ起こるのか、という問いに答えられない現代人はいないと思いますが、科学的な知識を持たない古代人たちは月食を不吉の前兆と見ていたようです。確かに、うす赤く染まった月が短時間に欠けて行く様は「怪奇」そのもの。

今宵は天体で繰り広げられる「怪奇大作戦」を楽しみたいと思います。

